

例会記録

例会日 火曜日

例会場 ヒルホテルサンピア伊賀

第3316回 令和5年4月11日 8:15～ 天候 晴れ

- 点 鐘：小坂会長
- 司 会：福森副幹事
- 会長挨拶：小坂会長
 - * 親睦家族会出発にあたっての会長挨拶

★親睦家族会記録★ *** どうする家康を巡る旅 ***



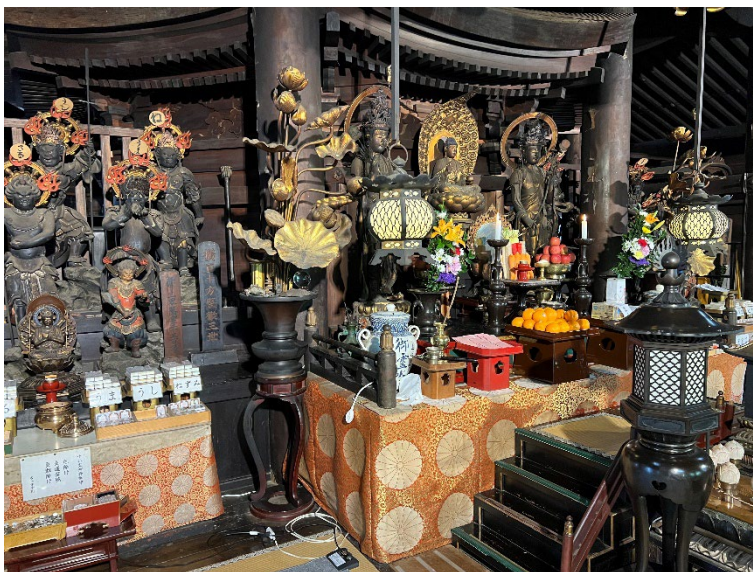
車内の歓談風景

出発直後のバス広報サロン席の様子。さっそく宴会のはじまりですが、のちにこれが大変なことを引き起こすこととなります。

山口・堀之内・堀川・増田福増・上田・大西の各君

09:20 湾岸長嶋SAにて小休憩 09:35 出発

10:30 第一目的地「真福寺」に到着



本堂見学

中央やや右、ご本尊付近の風景です。入口が左右に分かれており、その人の干支によって、入り口が変わります。



案内のお坊さんによる「寺の謂れ」の解説

真福寺は愛知県で一番古いお寺です。物部真福（もののべのまさき）によって建立された、天台宗延暦寺派のお寺です。柱の見える建物の奥に井戸があり、お水が貯められていますが、そのお堂内の水が、この寺のご本尊となっており、全国でもめずらしい本尊として知られています。



真福寺ご住職に、上野ロータリークラブと皆様の健康を祈念して、ありがたいお経をあげていただきました。



本尊の横にある仏像は干支の神様で、干支によって阿弥陀如来や大日如来などがあり、参拝者に福をもたらすと言われていました。



竹膳料理

本日の昼食は、真福寺さんの離れにある食堂で、筍づくしの竹膳料理をいただきました。

お寺の料理なので、もっとかたくなるしい席を想像していましたが、ビールもいただきながら、とても美味しくいただきました。

12:00 真福寺発

12:20 大樹寺着

全体写真撮影



大樹寺山門前で参拝記念の集合写真撮影。

大樹寺は徳川家の菩提寺で由緒あるお寺。桶狭間の合戦で織田家に敗れた元康（家康）は、先祖の墓前で切腹をしようとしたが、13代住職の登誉上人は問答の末「厭離穢土 欣求浄土」の教えを説いて元康を諭し、切腹を思いとどまらせたとされている



伝承では家康は以後、戦陣には必ず『厭離穢土欣求浄土』の旗指物を使ったと言われているが、これについても確実な記録は存在しない。また、桶狭間の戦いの直後、三河へ撤退する松平勢に対し、織田勢が追撃戦を行ったとの記録を有する資料も存在しない。近年では、岡崎城への帰還は織田勢の追撃戦に備えるために今川氏の許しを得たものであったとする説もある。



家康公等身大のご位牌

13:13 大樹寺発
13:28 岡崎公園着



岡崎城

徳川家康公は、ここ岡崎城内で誕生しました。家康公は、6歳で織田信秀（信長の父）、8歳で今川義元の人質となり、少年期を他国で過ごしましたが、永禄3年（1560）の桶狭間の合戦で、今川義元が戦死したことを契機に自立しました。ときに19歳。以来、岡崎城を拠点に天下統一という偉業への基礎を固めました。



家康公騎馬像

桶狭間の戦い当時（19才）の騎馬像。



どうする家康大河ドラマ館

岡崎公園では、現在 NHK で放映中のどうする家康大河ドラマ館を見学しました。平日にもかかわらず、たくさんのお客さんが同館を訪れていました。

14:30 岡崎公園発

14:35 カク久味噌着



八丁味噌蔵見学

八丁味噌とは、徳川家康が生まれた岡崎城から西へ八丁（約 870m）はなれた八丁村で味噌づくりがおこなわれたことから、八丁味噌と呼ばれるようになりました。カク久味噌さんは、NHK の朝ドラの舞台になったことで知られています。



八丁村の近くを流れる矢作川の上流は花崗岩質で、そこから流れてくる水は清浄で豊富、伏流水は夏も冷たく、味噌造りに最適でした。

八丁味噌は、温度を調整することなく八丁村の自然な気候の中でゆっくりと熟成させることにより、この地でしか生まれえない奥深い味わいが生まれます。

15:15 カク久味噌発

16:35 蓬菜軒着



☆蓬萊軒にてディナー☆

本日はお天気も良く、最高の親睦旅行でした。お楽しみ旅の締めは熱田の蓬萊軒にてウナギのフルコースディナーです。小坂会長の挨拶につづいて、山本禎昭会長エレクトのご発声で「乾杯」です。



肝焼き・酢の物・お造り・天ぷら、定番のメニューにつづいて真打ちはうなぎのひつまぶし。

ひつまぶしは蓬萊軒さんが発祥と言われているそうです。昔は普通の和食料理でしたが、経営が悪化して傾きかけたとき、このひつまぶしを考案したところ、大ヒットとなって今に至っているそうです。

商標登録もせず、皆と一緒に広めて潤ってくれればいいということで、名古屋を中心に広まっていきました。

18:40 蓬萊軒発

20:15 サンピア伊賀着

本日まで参加の皆さん、どうもいつかれさまでした。